

特別演題

ベトナム社会主義共和国への派遣報告

杉山 芳樹

岩手医科大学歯学部口腔外科学第二講座

外務省国庫金補助事業として、ベトナム社会主義共和国に対して、口唇口蓋裂等の先天異常児の医療援助、技術指導および援助計画立案の調査を行った。滞在期間は1996年12月より1997年3月の約3か月間で、医療援助、技術指導は、主としてホーチミン市のOdonto-Maxillo-Facial Centerにて行った。

同センターは南部ベトナムの口腔外科治療の中核病院であり、経済的理由から医療を受けられない唇顎口蓋裂患者を集めて、年2～3回の割合でホーチミン市主催のチャリティーオペレーションを行っていた。医療援助については、センターでの通常手術に加え、このチャリティーオペレーションにも参加し、44名の先天異常患者の手術を行った。また技術指導は、手術室における直接指導の他に、術前カンファランスや外来診療補助、講義などを通じ、口腔外科的疾患全般について行った。

ベトナム社会主義共和国の医療については、従来より医療予算の不足、施設の老朽化、都市部と農村部の医療レベルの格差などの問題が指摘されている。口唇口蓋裂患者の治療については、これらに加え、治療施設、専門医の不足や薬剤、医療器材、最新医学情報の入手の困難さなどの問題があげられる。

現在、日本の途上国援助（ODA）の規模は世界第一位である。今後は物資や資金の援助だけでなく、長期的な視野に立ち、人材の派遣や発展途上国の人材育成など人的交流を深めることが大切であると思われた。